

中央高速の渋滞の名所と言え、猿橋バス停を思い出す人も多かろう。処で「猿橋」とは何か、御存知だろうか。その名の如く、橋(bridge)である。先般、大月の美味しい“ほうとう”を食べさせてくれる店の店主と話している時、「ここから近いから、是非行った方がいい。一見の価値あるよ。」と勧められ、家内共々出掛けた。細部は省略するが、日本3奇橋の一つで、奇橋と言うに相応しい面白き橋であった。

因みに日本3奇橋とは、『日本の古橋の中でとくに構造的に変わったものとしてあげられてきた岩国(山口県)の錦帯橋、甲斐(山梨県)の猿橋、黒部(富山県)の愛本橋をいう。

愛本橋の代りに木曾の棧(かけはし)あるいは祖谷(いや)(徳島県)のかずら橋を入れる説もあるが、棧はけわしい崖に沿って板をかけ渡した橋で、構造的には上述の諸橋ほどの特色はない。錦帯橋は1673年(延宝1)に創建された木造アーチを主体とする優美な橋、猿橋は少なくとも13世紀以前にはつくられていたに違いないはね木橋である。1656年(明暦2)創建とされている愛本橋も原理的には猿橋と似た構造で、より大規模な橋であったが、1891年まったく別の形式の橋にかけ替えられてしまって今はない。』(百科事典)是非出掛けてみて如何でしょうか。

さて、タイトルを見て、はたと首を傾げた方も多かろう。何か007バリの映画タイトルみたいであるが、実はこれは正しく事実なのである。

日本人ビジネスマンにとって、名刺は必携すべき小道具の一つであるが、名刺は別名(別称)「顔」とも言われる。シンプルな名刺から、色々と凝った名刺まで、その人や組織の性格を表している。市町村役場関係者の名刺を見てみると、その町を代表するシンボルが名刺のアクセントとして使用されている。

小山町役場が公式に使用している名刺は7種類である。

小山町ならではの面白い特色ある写真や絵が使われている。これをみると小山町がどのような町か、何をPRしようとしているかが一目瞭然である。それを紹介しよう。



- ① 菜の花と富士山：水掛菜については、富士紀行32号を参照



- ② 幻の滝(富士山須走口5合目)：夏のある時だけ現れるという幻の滝
富士紀行9号を参照



- ③ 富士あざみライン(富士山須走口)：東口登山道、最近では最も登山客が多い。
新5合目まで、登山バスで40分



- ④ 浅秋の富士山(小富士)：新5合目から徒歩20分、標高1900mの小富士は、富士山の寄生火山である。富士山も雄大、山中湖・河口湖を眼下に眺望絶佳。紅葉見事也。



⑤ 冬の足柄峠から（小山町）：標高759_下、足柄古道、足柄聖天堂、新羅三郎義光吹笙の石、足柄の関、足柄城趾などあり。小山・御殿場の彼方に雄大な富士



⑥ 冬の水田（小山町一色）



⑦ 金太郎誕生の地：金太郎の生家の跡に建てられた金時神社は金時公園にあり。金太郎に纏わる多くの伝説が町内に残されている。坂田今時は、伝説上の人物であるが、モデルとおぼしき人物が、近衛府の役人であった「下毛野今時」である。

(不鮮明で済みません)

